会議名	第1回厚木市観光振興推進委員会
日時	令和7年8月18日（月）10時～11時
場所	第二庁舎16階 会議室B
出席者	出席者 15人 厚木市観光振興推進委員会委員8人 オブザーバー1人（一般社団法人厚木市観光協会専務理事兼事務局長） 事務局6人（産業文化スポーツ部長、産業文化スポーツ部次長、商業観光課長、観光振興係長、商業観光課主査、商業観光課主任）

会議の経過は次のとおり。

1 開 会 商業観光課長
※委員自己紹介、事務局紹介

2 厚木市観光振興条例及び厚木市観光振興推進委員会並びに厚木市観光振興推進委員会会議等の公開に関するルールについて
資料1、資料2及び資料3に基づき説明

3 案 件

(1) 委員長及び職務代理の選出について
委員長及び職務代理を選出。

(2) 厚木市観光振興条例運用状況について
資料4-1及び4-2に基づき説明。

【意見等】

委 員：評価がBとなっている「3 水辺ふれあい創出事業」について、事業区域内の用地処理とあるが具体的な内容は。

事務局：事業区域内にある民地が相続されていないため、遡って裁判所で相続人を断定させ、手続き等を進めているところである。

委 員：それほどメジャーにはなっていないが、ゴミ拾いをスポーツとしてとらえる活動が近隣の自治体で行われている。昨年大和市主催の大和駅周辺で行われた「スポGOMI やまとカップ」というイベントに参加した。
市内企業から寄付を募っていた。全国的にも有名な取り組みである。SDGsを推進するためにも、環境について意識を高めていかななくてはならないのではないかと。厚木市としてのお考えは。

事務局：市内でも内陸工業団地協同組合が主催で同様の活動を行っており、厚木市としてもスポーツの事業として後援している。ただし、ゴミを拾うことが目的となってしまうと、今後スポーツとして捉えていく場合、スポーツの部署としては疑問を感じるのではないかと。自治会の組織自体も活動が厳しくなっている状況であるため、今後必要があれば違う視点で進めていくことも重要なのではないかと。目的の最終地点が環境美化と

いうことであれば環境部門へ提案する。

委員：七沢地区では、ハイキングコース上の鹿柵等が老朽化しており、地元住民がテープ等を使って補強作業を行っている。コース上の安全確保のため、各種整備や注意喚起看板の設置等を検討してもらえるとありがたい。

事務局：課でハイキングコースの随時整備はしている。危険個所については情報共有し、引き続き整備事業を行っていく。

(3) 令和7年度観光振興に係る関連事業について

資料5に基づき説明。

【意見等】

委員：来年からあつぎ鮎まつりの開催時期が秋に移行すると聞いている。いつ頃開催予定なのか。

事務局：詳細は検討中である。秋に移行する理由は、夏に開催するとなると熱中症対策が大変であること、従事するのも大変であること、また今年の3月に関係団体等や市民に向けたアンケートを取った結果秋開催希望が多数だった為である。

総合的に判断し、秋の開催に向けて準備をしている。また進捗があったら情報共有する。

委員：秋開催になった場合、夏のイベントは何もなくなるのか。

事務局：何もないというわけではない。あつぎジャズナイトも8月に開催される予定であり、7月にも開催する様々な事業がある。連携してバランスを取り、寂しい厚木の夏になることがないよう検討していく。

(4) 第3次厚木市観光振興計画の策定について

資料6に基づき説明。

【意見等】

委員：友好都市である沖縄県糸満市と提携したイベントはないのか。

事務局：毎年1月～2月頃に糸満市で糸満フェアイベントを開催しており、本市職員が伺い物産や観光PRをさせていただいている。

また、先日開催したあつぎ鮎まつりにも糸満市に来ていただき、観光PRを行ってもらった。情報共有を図り、交流しながら事業展開を進めている。

委員：沖縄県は豚肉が有名。豚肉は厚木市と共通の特産物なので、一緒にPRできたら良いと思う。

委員：第3次は何年計画か。

事務局：期間を含めて検討中である。

委員：近年厚木市で生活をしていて外国籍の方が増えたと感じている。実際外国籍の人口は増えているのか。

事務局：住民登録の統計上増えてはいると思う。観光での施策のターゲットは在住外国人ではなく、インバウンドであり、外から外国人観光客を増やすよう事業を進めている。

委員：実際にはインバウンドは増えているのか。

事務局：統計としての数字はないが、増えている傾向にある。今年度については厚木市内の旅館と連携し、外国人宿泊者に関するアンケートを取る予定である。インバウンドの需要が高まっているので、集計後どのくらい需要があるか、集計結果を今後の事業の参考にする。

委員：厚木市はどこへ行くにもアクセスが良いので、その点をPRしていったらいいと思う。旅館や趣のある施設も多いので、インバウンドの需要があると思う。

事務局：過去にアクセスが良いことでPRした事業もあった。引き続き検討していく。

委員：インバウンドに対応するためにも市での援助が必要になる。

事務局：受入環境整備事業の中に、厚木市訪日外国人おもてなし事業補助金というものがある。厚木市内旅館や飲食店などで、訪日外国人観光客の誘致を推進するための制度であり、インバウンド向けの英語表記のパンフレット等を作成する際に活用している。

委員：七沢の方でも観光案内ができるよう看板の修理等、受入環境を整備してほしい。

事務局：厚木市観光協会と情報を共有して連携していく。

委員：インバウンドのお客さんも増えているように感じるが、増えすぎてトラブルも多くなっているので、厚木市においても注意をしながら事業を推進していくようお願いしたい。

(5) 観光振興に係る意見交換について

委員：先日あつぎ鮎まつりに参加してきた。盛大に開催され、大盛況であった。様々なお客さんがそれぞれの楽しみ方をしていてとても素晴らしかった。熱中症対策もきちんとされていて過ごしやすかった。

厚木市ではインバウンドに関しても力を入れているが、大学でも学術交流を通して厚木を知ってもらうような事業をしている。

アクセスの良い七沢温泉を大学のゼミ合宿などで使用するなど、学術面の交流を通して厚木市の観光に貢献していけたらと思っている。

4 その他 特になし。

5 閉 会